

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

羽曳野市立羽曳が丘小学校

## ■この調査は

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

## ■調査の結果は

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

## 1 調査結果について

### ■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語は大阪府の平均正答率を上回っていますが、全国の平均正答率は、やや下回っています。
- ・算数と理科は、大阪府・全国とも平均正答率を下回っています。
- ・国語では、「知識・技能」の内容においては正答率が高い傾向があります。一方、「思考・判断・表現」の内容においては正答率が低く、「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」「目的や意図に応じ、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」ことに課題がみられます。
- ・算数では、「図形」や「変化と関係」の領域に定着がみられる一方、「数と計算」や「データの活用」領域は苦手傾向にあり、特に、数と計算では「除数が小数である場合の除法の計算ができる」こと、データの活用では「必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができ」ることに課題がみられます。また、国語と同様に算数でも「知識・技能」に内容については正答率が高く、「思考・判断・表現」の内容については正答率が低い傾向にあります。
- ・理科では「『粒子』を柱とする領域」と「『地球』を柱とする領域」は大阪府平均を上回っています。「『エネルギー』を柱とする領域」と「『生命』を柱とする領域」は大阪府平均を下回っています。また、国語と算数とは違い、「思考・判断・表現」の内容については正答率が高く、「知識・技能」は正答率が低い傾向にあります。

### ■質問調査からみえる本校の子どもたちの姿

#### ・ よい傾向がみとめられる項目

- 学校を肯定的に捉える児童の割合が多く、「学校に行くのは楽しい」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」は全国や大阪府と比較しても、かなり高い傾向になります。
- 多数の項目において全国より良い傾向がみられます。特に、児童の学習意欲や社会貢献への意欲が高く、創意工夫する楽しさを感じている児童が増えています。

#### ・ 課題となる項目

○5年生までの授業でICT機器を使用した頻度が全国や大阪府の値と比較して低い傾向にあります。

## ■児童質問紙と学力調査結果とのクロス集計結果からみえる本校の子どもたちの姿

### ・正答率と特に強い相関関係があるという結果があらわれている項目

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」に対して、肯定的回答者ほど正答率が高い傾向にあります。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的回答者ほど正答率が高い傾向にあります。

## 2 これからの取組みについて

### ■学校で取り組んでいくこと

- ・校内研究テーマである「言語活動を大切にした授業」に取り組んで4年目となり、自分の意見を考え、相手に伝わるように工夫して発表する機会を今後も設けていきます。また、文章の書き方（作文も含む）に関しては学年ごとに取組みを共有化して系統立てた指導になるように意識していきます。
- ・国語では「書く」ことを意識して全学年で取り組んでいるが、複数の条件を満たして文章を書くなど条件を加えながら書く指導をしていきます。
- ・算数では、言葉や数、式、図、表、グラフなどの多くの情報の中から必要な情報を選び、それらを用いて筋道を立てて説明して論理的に考える問題に十分に触れられていないことが一つの原因として考えられます。今後、授業の在り方を見直したり、類似問題に取り組んだりしていきます。
- ・理科では、下学年の学習内容からの出題の正答率も低いことから、復習の機会を設けたり、新たに学習する単元と既習の単元を関連付けて学習したりして、既存の学習に何度も触れることで改善していきます。
- ・3～6年生では、国語と算数の授業交換を実施するなどして、多くの教員が児童と関わるような取組みを進めていきます。

### ■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・引き続き、ゲームやテレビ、スマートフォン等の使用に関わる家庭ルールを決めてください。また、定期的に決めた内容について家庭での話し合いをお願いします。
- ・家での時間の使い方（朝食の摂取、睡眠時間の確保、家庭での読書や学習など）については、時々話題にすることでお子さまの意識づけにもなっていきます。心も身体も健康でいられるよう、ご協力をよろしくお願いします。
- ・3年生以上においては、自主学習ノートの取組みを進めています。家庭においても励ましの声かけなどをお願いします。